

令和3年度 練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会 要点記録

1 開催日時

令和3年11月1日(月)15時30分 ~ 16時30分

2 会場

練馬区立区民・産業プラザ3階 研修室2

3 出席者

ボランティア日本語教室等27名、地域振興課長、国際・都市交流課長、
説明者および説明補助
国際・都市交流課国際・都市交流担当係1名、
防災計画課防災計画係2名、地域振興課事業推進係3名

4 事務局

地域振興課

5 配布資料

- 資料1 災害時等における外国人支援対策について (防災計画課)
- 資料2 令和2年度 国際交流事業実施結果 (国際・都市交流課)
- 資料3 令和3年度 国際交流事業(予定) (国際・都市交流課)
- 資料4 令和2年度 多文化共生事業実施結果 (地域振興課)
- 資料5 令和3年度 多文化共生事業(予定) (地域振興課)
- 資料6 区ホームページ「がいこくのひとむけ」ページの新設について
(地域振興課)
- 資料7 多文化共生事業における外国人区民向けPRについて
(地域振興課)

6 内容

次第に沿って以下のとおり進行

開会（各委員自己紹介）

各委員が所属および氏名を紹介した。

災害時等における外国人支援対策について（資料2）

資料に基づき説明を行い、つぎのとおり質問および回答があった。

【委員】

練馬区のホームページまで、外国人がたどり着けるのか。

もう少し SNS、ラインやツイッター、ワッツアップへアクセスできるツールの方が、さらに身近に瞬時にたどり着けると思うが、どうか。

【防災計画課】

「がいこくのひとむけ」ホームページについては、この後、紹介があると思う。

見たいページまでたどりつけるように、見出しだけで何の情報か分かるようにする、見出しをやさしい日本語で表記するといった工夫をしていきたい。

SNS については、防災無線で災害情報を放送した際に連動して、ホームページに文字情報が表示される、ツイッターで配信される仕組みを導入した。現在、このように日本語での仕組みができつつある。外国語での発信は行えていないが、様々な取組が全国で進んでいるため、そうした取組を研究していきたい。

【地域振興課長】

私どもの課でも台風の接近時には、やさしい日本語で「大雨が降ります」や、「危険です」など、SNS を通じて発信を始めている。初めの一步であるが、皆様のご意見を聞いてまいりたい。

【委員】

東京都の防災ボランティアの対象は外国人なのか、日本人なのか。

【防災計画課】

いずれも対象である。登録に際して、例えば英語の場合、TOEIC の点数など要件がある。その水準があれば日本人でも登録できる。外国人の場合は、日本語の語学力の要件がある。詳しくは東京都のホームページをご覧ください。

【地域振興課】

区においても通訳ボランティアを募集している。日頃、区窓口へ外国人が来た際に通訳として協力いただくだけでなく、災害時も避難拠点等に派遣する通訳ボランティア制度を設けている。

資格は TOEIC の点数等ではなく、語学が堪能といったことが条件である。日本人も外国人も対象である。こうした仕組みも知っていただきたい。

【委員】

1 点目は防災教室について聞きたい。外国人向けに地震の揺れを体験できるもの等を使っているか。阪神・淡路大震災を経験した外国の方で、地震が爆発だと思ったという方がいた。地震とはどのようなものか、体験いただくことが必要である。

2 点目は、ホームページの話である。観光庁で多言語のアプリを出しており、10 数か国語に対応している。先日の震度 5 強の地震があった時に、養成講座の方々の間で、こういうアプリがあると広まっていた。そうしたものを区のホームページに載せて、ダウンロードしてもらおうのも一つの案だと思う。

【地域振興課】

1 点目の防災教室については、私どもと防災計画課で協力している。起震車のことかと思う。起震車は人気があり、使えないこともあるが、押さえられるときは押さえるようにしている。

【防災計画課】

2 点目のアプリについては、様々な翻訳アプリがあることは承知している。その中で、例えばセーフティティップスやボイストラは、スマホやパソコンで比較的簡単に翻訳できることは知っている。一方で、様々な困難な点があるとも聞いている。例えば、ボイストラは翻訳の記録がサーバーに残るため、相談内容に個人情報が含まれる場合、セキュリティ上、使えないと聞いている。

よって、制約がないアプリを調べて、活用できるものは使っていきたい。

【委員】

防災の手引をボランティア日本語教室で利用しているが、やさしい日本語で書いたものはあるか

【防災計画課】

現時点では、作成の予定はないが、個々の情報をやさしい日本語にする等、できることから取り組んでいきたい。

国際交流事業について（資料 2・3）

資料に基づき説明を行い、つぎのとおり質問および回答があった。

【委員】

オーストラリアのイプスウィッチ市に図書を寄贈しているとは知らなかった。どのようなジャンルの本を送っているのか

【国際・都市交流課】

主に日本文化に関するものである。簡単な絵本、やさしい日本語で書いた本や英語の本も贈っている。

イプスウィッチ市から贈られた本は基本的に小竹図書館に多く置いている。近くの図書館でも取り寄せられるので、機会があれば手に取っていただきたい。

多文化共生事業について（資料４・５）

資料に基づき説明を行った。（質問：特になし）

区ホームページ「がいこくのひとむけ」ページの新設について

（資料６）

資料に基づき説明を行った。（質問：特になし）

多文化共生事業における外国人区民向けPRについて（資料７）

資料に基づき説明を行い、つぎのとおり質問および回答があった。

【委員】

資料にボランティア日本語教室も入れて欲しい。

また、区内で外国人雇用をされている事業所や、外国人のための税理士などを対象にしても良いのでは。個人事業主も多く、区内で働いている人は、そこまで大きいところで働いているわけではない。雇用主自身も知らないで、こういった情報を伝えると喜ばれると思う。

【委員】

どれくらい外国の方が保育所や幼稚園に行かれているか分からないが、ご兄弟で幼稚園に通っていれば下のお子さんもいると思う。幼稚園などに送っても良いと思う。

【委員】

小学校、中学校、幼稚園に外国の方がたくさん通っている。小学校ならば、例えば教室や廊下、職員室、掲示板に貼ってもらう等できると思う。

また、学校別にどこの国籍の方がいるか事前に把握する。例えばフィリピンの方が多い場合、タガログ語や英語で行事やイベント、お困りごとの相談を実施している旨を、複数の手段はいらぬと思うので、アナログでPRするのが良いと思う。

もう一つは先生にも直接お願いして、先生から注意を向けてもらうこともできると思う。

なお、本日は、アオバジャパン・インターナショナルスクールからも先生にお越しいただいている。アオバに対する情報発信をさらに行い、先生方のご意見を伺って反映させるといったこともできるのではないかと先ほ

どの防災部署と連携した防災イベントは、かつてアオバジャパン・インターナショナルスクールで場所を貸していただいて、外国人のための防災イベントを開いたことがある。そうしたイベントを開いて、外国人に対する一つのエポックのようなものを作る。例えば春に1回、秋に1回といった開催もできるのではないか。

その他

質問：特になし

以 上